

2026 (R8) 年度 文学部英文学科 一般選抜 (中期) 講評

三つの英文読解問題と英語での表現力を問う自由英作文の問題から構成されている。読解問題は、ニュース、短篇小説など多様なジャンルの英文を限られた時間内に的確に読み解く能力を、英作文の問題では、発想力と同時に自分の伝えたい内容を適切な英語で表現できるかどうかを見た。

I

【出題意図】

2024年の7月5日の *The Washington Post* に掲載された “Scientists believe they may have finally found a way to recycle clothing” と題する衣類のリサイクルに関する記事である。現在、ファストファッションの台頭で世界中で年間9千2百万トンもの衣類が捨てられ、その8分の1しかリサイクルされない。残りは焼却炉で燃やされるかゴミ処理場に捨てられる。リサイクルが難しい理由として、衣類の布地にいろいろな素材が混ざっているということがある。何人かの科学者が布地の素材を分解する方法を発見したという話であるが、まだ研究段階で実用には10年以上かかるようである。この記事を読んだうえで、自分の衣類の消費について考えさせるのが出題意図である。

【評価のポイント】

- 問1 本文の各パラグラフの内容に当てはまる文を選ぶことがポイントである。前の文の主語や時制を考えるとヒントになることもある。
- 問2 (1)は「ファストファッション(の出現)」、(2)は「リサイクルした糸を買う会社が見つけれない」、(3)は「ファッション業界が服の中に混ぜる素材を明白にしない」を答えることをポイントとした。
- 問3 「衣服を新しい衣類に変えるリサイクル」を答えのポイントとした。
- 問4 本文の内容を引用して、自分が次に買いたい服を説明することをポイントとした。

【答案の傾向】

- 問1 おおむねよくできていた。
- 3 (ウ) は最もよくできていた。仮定法の文法が用いられている直前の If 節の動詞の過去形が空欄のヒントとなる。
- 2 (オ) と 4 (ア) を取り違え、2 (ア) と 4 (オ) とするミスが最も多かった。2については、直前の downcycled を言い換え説明した記述が入るべきであることに気づけば、衣服が padding や insulation に用いられる less valuable material に作りかえられることを述べた (オ) が適当だとわかる。

問2 おおむねよくできていた。

- (1) ファストファッションを説明しようとして間違っただけの文を書いている答案も見うけられた。
- (2) リニューセルの糸の質が悪かったからといった誤答も見うけられた。
- (3) ファッション業界が服の中に加えられたものを明白にしていなかったからと答えるべきところを小売業者や会社が他の素材を布地に織り込む例を述べただけの解答も見うけられた。

問3 下線部の前後の内容を理解したうえで、That rare form of recycling を把握し、うまくまとめた答案が多くあった。一方で、前文に引きずられたりまどわされたりして逆の意味にとらえたものも散見された。下線部は「その稀有な形のリサイクリング」なので、どのようなリサイクリングを指すのか、前後から読み取って「～するリサイクリング」とすればよいところを、「～の状況」などとする答案も目立った。a new piece of clothing を「新しい衣類の一部」と間違えて解釈した答案が多かった。また rare を rate と間違えていると思われる答案なので、どのようなリサイクリングを指すのか、前後から読み取って「～するリサイクリング」とすればよいところを、「～の状況」などとする解答も目立った。a new piece of clothing を「新しい衣類の一部」間違えて解釈する答案が多く、また rare を rate と間違えていると思われる答案も複数あった。なので、どのようなリサイクリングを指すのか、前後から読み取って「～するリサイクリング」とすればよいところを、「～の状況」などとする解答も目立った。a new piece of clothing を「新しい衣類の一部」間違えて解釈する答案が多く、また rare を rate と間違えていると思われる答案も複数あった。

問4 本文内容を十分理解したうえで、読解から得た知識を用いて適切な英語で表現している答案がかなり多くあった。問題となる文章から新情報を得て、環境問題を自分の身近な問題として考え、自己表現につなげることの重要性を認識できていた。英語表現では materials made from～が materials making from と分詞の使い方に誤りがあるものもあった。

II

【出題意図】

1949年12月3日の *The New Yorker* に掲載されたアイルランド人作家 Frank O'Connor による短編 “The Man of the House” の一部である。体調を崩し咳き込む母親は主人公に心配させまいとする。他方、学校を欠席して母親の世話をしようとする主人公は、さまざまに思考し行動する。出題の文章全体はやや長く、古めかしい英語が用いられた物語文ではあるが、基礎的な単語やフレーズを押さえられていれば、文章全体は理解できると思われる。場面ごとの登場人物間のやりとり、登場人物の心情、そして文章全体のながれを問うこととした。

【評価のポイント】

- 問1 母親が咳き込んでいるにもかかわらず「微笑みを浮かべよう」とした理由について理解できるかどうかの評価のポイントとなる。
- 問2 ここでの主人公の思案について記述する、文学的読解力が試される難易度の高い問題である。主人公は咳き込む母親の看病、学校の欠席、母親の食事のなど、不安や心配を抱えているはずである。しかし、それと同時に、主人公は学校の全景を眺めつつ、学校生活の楽しさや辛さについても思い巡らしている。主人公がこういった入り混じった心情を持っていることを理解できるかが評価の分かれ目となる。
- 問3 下線部の言葉を発した母親の心情について記述する問題である。この時、主人公はお茶の準備をしている。これを目の当たりにする母親やミニー・ライアンはどのような心情を持つに至るのだろうか。この点に気づくかどうかを問う問題である。
- 問4 下線部の内容記述問題である。主人公の友達であるボブ・コネルがパブ（居酒屋）で行ったことを理解できれば、導きだせる。
- 問5 空所補充（動詞）の問題。選択肢の動詞も基本レベルにあるため、空所それぞれの前後の文脈を把握していれば比較的解答しやすい問題であろう。

【答案の傾向】

- 問1 おおむね出来ていた。
- 問2 芳しいとは言えなかった。母親の体調を心配しているのだから、主人公は心痛しているはずである。だが、主人公の心情は楽しさや喜ばしさに満ちていると記述された解答が散見された。
- 問3 難問であった。この場面における母親とミニー・ライアンとのやりとりは、主人公がお茶の準備にしている際に発せられたものであることに気づいた答案は多かった。しかし、主人公のお茶を準備する様子や行動から母親が認識するのは、一生懸命母親を看病している主人公の姿であることまで見抜いた答案は少なかった。
- 問4 おおむね出来ていた。“ask A for B”というフレーズをしっかりと理解しておいていたきたい。
- 問5 おおむね出来ていたと言えるが、不規則動詞“lay”と“lie”の使い分けを理解していない答案が目立った。その他の空所補充の正答率は比較的高かった。

III

【出題意図】 ナイジェリア出身の作家チママンダ・アディーチェ（Chimamanda Adichie, 1977-）が2009年7月に行ったTEDトーク「シングル・ストーリーの危険性（“The Danger of a Single Story”）」の講演録からの抜粋である。アディーチェはある地域や人々について

一つの見方だけで決めつけることの危険性を説く。一面的な物語では他者を固定化し、偏見を生むことになってしまうが、さまざまな立場や経験を知ること、本当の姿に近づくことを、具体例を上げながら軽妙な語り口で説いている。本問ではこの講演の趣旨を理解できているかを問う。

【評価のポイント】

問1 下線部の直後2文が根拠となる。そこでは、「私」はFideの一家がいかにも貧しいかということ以外は何も見えていなかったため、Fideの家族が何かを作れるという発想がいつさなかったことが記されている。この部分をまとめればよい。

問2 “My American roommate was shocked by me”以降の箇所です。実際のルームメイトの反応が書かれている。ルームメイトにとって「私」が自分とあまり変わらない生活を送ってきたことが衝撃であった様子が示されているので、具体例を交えてまとめればよい。

問3 ある地域や人々を正しく理解し、評価するためには a single story ではなく、many stories こそが重要というアディーチェの主張を「本文の内容に即して」説明する際、シングル・ストーリー（一面的なものの見方、偏見）が人の「尊厳 (dignity)」を傷つける危険性があることを理解しているかどうかポイントとなる。

【答案の傾向】

問1 おおむねよくできていた。しかしながら、これは下線部直後の記述とむしろ逆になってしまっている。

問2 おおむねよくできていた。散見された答案としては、実際のルームメイトの反応ではなく、“What struck me was this” 以降、つまり著者がルームメイトの反応からどのような印象を受けたかという点をまとめた部分を根拠にしたものもあった。

問3 下線部の2つ上の段落にある It robs people of dignity. 以下の内容「ある地域や人々に対する一面的な見方では、その尊厳を奪い、同質性よりも異質性を強調してしまう恐れがあること」、あるいは下線部直後の Stories have been used 以下に書かれた「物語は人の尊厳を傷つけることも、それを修復し、高めることもできる」といった物語の特性のいずれかを挙げたうえで、だからこそ「単数形の物語でなく、その多面性を捉えるための複数形の物語が大切」と解答した見事な答案も多かった。一方、単数、複数の区別が明確に示されないまま、物語の特性を述べるにとどまった答案も散見された。“Many stories matter.”の matter が「重要である」という意味の動詞であること、この理解が鍵となったと考えられる。

IV

【出題意図】

この夏2週間、ロンドンで、70代のカップルのところにホームステイをする場合に、何を

持っていくのが日本からのお土産としてふさわしいかを作文させる問題である。正確な英語でわかりやすく表現するだけでなく、読み手の興味を惹くような提案ができる発想力や、着眼点の面白さにも注目する。

【評価のポイント】

- ① 内容（発想力） ②形式（文章構成・文法） ③分量（100語程度の英語で書かれているか）を中心に採点した。より詳細に述べれば、お土産として具体的な品物が挙げられているかどうか、そして、その理由が論理的かつ明確に書かれているかどうか、さらに、文法的に正確に書かれているかがポイントである。

【答案の傾向】

お土産の具体例としては、日本茶、抹茶、扇子、和菓子などが多く、ほとんどの答案においてはその理由が論理的に述べられていた。ただし冠詞の不適切な使い方や、可算名詞、不可算名詞などの区別がついていない答案も見られた。また、culture を calture、tea を tee、introduce を introduse と書くようなスペルミスの答案もあった。さらに、外国に持ち込むことが通常禁止されているもの——例えば、花火、植物、生肉——を例として挙げた答案もあった。日頃から、そのような情報にも接するようにして、文化的な常識を知っておく必要もあると思われる。